

## キンポウゲ（ウマノアシガタ）とミヤマキンポウゲ

ミヤマキンポウゲは、雪田の残る山々にあこがれる、山の愛好家ならよく知る高山植物である。田中澄江の「花の百名山」でも、日本アルプスの高山である白馬岳とか、仙丈岳などの章に、その記載が見られる。

ミヤマキンポウゲは、北半球の温帯より北に広く分布していて、ヨーロッパやシベリアでは、もっとも普通の草だという。この種（しゅ）そのものに希少価値はないが、その輝く黄色は記憶に残る。（近縁のキタダケキンポウゲやヤツガタケキンポウゲは希少種）

いっぽう、ただのキンポウゲ（ウマノアシガタともいう）は、日本の平地に生える多年草。5枚の花弁には黄金色の光沢がある。自転車に乗っていてこれを見ると、ミヤマキンポウゲを思いださせる。ただ分類学的には、葉の切れ込みなどに差があるらしい。

東広島市で、キンポウゲが群れ咲いて美しい場所は思ったほどない。ここでは県道331号を三永水源地から東に向かう区間を紹介しておこう。もっともエンジン草刈機で刈られてしまえばお終いだが。





~~~~~